

上・下水道・環境の総合誌

水道公論

THE SUIDO KORON

Vol.46
No.2
2010

2

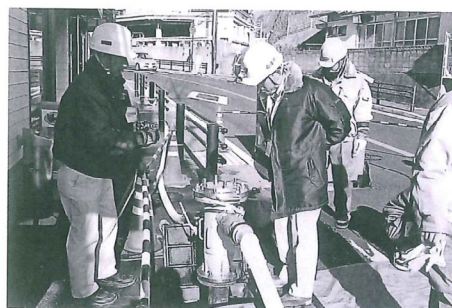


ランチャーからPCボールを挿入

管内カメラと樹脂製ボールを使った管内洗浄工法（SCOPE工法）を扱う中里建設（本社：佐野市、中里聡社長）は12月21日、長崎県壱岐市水道課の送水管約1・8キロメートルの洗浄を行った。当日は、同送水管の施工区間を1スパンとして一気に洗浄。半日で完工した。

壱岐市

半日で1・8kmを洗管 困難な濁水を解決



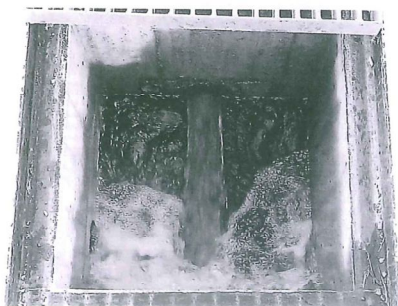
施工に立ち会う原田・壱岐市水道課長（中央）ら

今回、壱岐市では、住民より濁水の苦情が寄せられたことから管内のクリーンアップを実施。しかしながら、通常の洗管工法では濁り解消に至らなかったため、樹脂製ボール（PCボール）によるSCOPE工法が採用された。洗管中は、住民には配水池の貯水から配水。施工が計画通り半日で終わったため、住民に断水で不便をかけることはなかった。

今回の施工路線は、口径150ミリダクタイル鉄管（モルタルライニング）300メートルと150ミリ塩ビ管1500メートルで構成される渡良送水管。

施工は、まず事前に管内カメラで調査を実施。量水器を取り外した補修弁をPCボールの挿入口（ランチャー）として、硬さと直径を変えたPCボールを加圧した水道水により連続4回管内を通した。

これにより、管内の堆積物のほか、掃流では取れない頑固なスケールも除去。これらは濁水として到達側（キャッチャー）の配水池に押し流され、PCボールは無事回収。事後管内カメラ調査により、埋設後約30年を経たパイプの「大掃除」を完了したことを確認した。



濁水の到達状況



水道は管路が主、鉄管協会でサポート
常に「強い」、「安全」、「安い」、「簡単」を追求
日本ダクタイル鉄管協会理事長 本山 智啓 氏

- 特別企画 新時代に適応し、情報支援を強化 日本下水道協会
- インドネシア・パダン地震における水道施設の被害と復旧
- 満洲の水道をつくった人たち (2)